

臨床心理学特論Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	M5000	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	梶原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人として臨床心理士・公認心理師について、専門家としての成長過程、職業倫理、社会的責任、記録の採り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	臨床心理学とは何か、その原理と方法論について理解して、説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	心理臨床家のひとつのモデルとして臨床心理士・公認心理師の資格について理解して、説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度（20%）			1／2／3	
2	複数のレポート課題（80%）			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 臨床心理学とは 第2回 臨床心理学の歴史 第3回 臨床の知と科学の知 第4回 臨床心行為と医行為 第5回 事例研究とその意義 第6回 事例研究の方法 第7回 事例研究と臨床心理学 第8回 臨床心理専門家としての発達段階 第9回 職業倫理Ⅰ 基本 第10回 職業倫理Ⅱ 事例 第11回 守秘義務 第12回 記録 第13回 関連諸機関の機能と役割Ⅰ 保健医療分野 第14回 関連諸機関の機能と役割Ⅱ 福祉分野 第15回 他職種との協働					

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：当該学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと（60分） 復習：学習内容を振り返ってまとめておくこと（30分）、関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと（30分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて、提示配布する
オフィスアワー
水曜日3限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

臨床心理学特論ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	M5010	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中内 みさ				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
本授業では、ロジャーズおよびユングの著述をとりあげ、意見発表や討論を通して、ロジャーズやユングの理論の理解を深める。また、それらの理論が臨床現場でどのように生かされているかを考察する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	ロジャーズのカウンセリング理論を説明することができる。				
2	ユングの無意識についての考え方を説明することができる。				
3	ロジャーズの理論がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。				
4	ユングの無意識の考え方がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	2回のレポート（60％）			1／2／3／4	
2	討論への積極的な参加（40％）			1／2／3／4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション					
2 「カウンセリング」を読む1 第1章 緒論					
3 「カウンセリング」を読む2 第2章 カウンセリングとサイコセラピーにおける新旧両見地					
4 「カウンセリング」を読む3 第3章 カウンセリングはいつ必要とされるか？					
5 「カウンセリング」を読む4 第4章 カウンセリング関係の創設					
6 「カウンセリング」を読む5 第5章 指示的アプローチと非指示的アプローチ					
7 「カウンセリング」を読む6 第6章 自由に表現するようにすること					
8 「カウンセリング」を読む7 第7章 洞察の達成					
9 「カウンセリング」を読む8 第8章 終結時の諸様相					
10 まとめ					
11 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む1 夢の重要性～無意識の過去と未来					
12 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む2 夢の機能～夢の分析					
13 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む3 タイプの問題～夢象徴における元型					
14 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む4 人間のたましい～象徴の役割					
15 「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む5 断絶の治癒					
16 まとめ					

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業を受けるにあたっては、文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておくこと（約40分）。 授業後は、討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておくこと（約40分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
【必携書】 ・ ロジャーズ 「カウンセリング」 岩崎学術出版社 あるいは 「カウンセリングと心理療法実践のための新しい概念」 岩崎学術出版社 （どちらでも可） ・ ユング「人間と象徴 無意識の世界 上」 河出書房新社
オフィスアワー
最初の授業で伝える。
連絡先
中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業では意見発表や討論を行います。人の心に携わる者としての自覚と積極的で誠実な態度を望みます。

臨床心理学演習A			単位数	2単位
授業コード	M5050	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中内 みさ			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	臨床心理論			
本授業の概要				
臨床心理学の研究手法や倫理を理解する。また、事例報告書・研究論文の執筆の仕方について学び、心理臨床に関する学術論文を作成するための基礎的能力を習得する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究における責務と倫理を説明できる。			
2	事例に応じた報告書を書くことができる。			
3	心理臨床に関する研究の視点と方法について説明できる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポートあるいは事例報告書の作成（50%）		2	
2	発表（30%）		1／3	
3	討論への積極的な参加（20%）		1／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. オリエンテーション 臨床心理学演習の目的と授業計画				
2. 研究倫理に関して1 研究の責任				
3. 研究倫理に関して2 個人情報の保護および発表の仕方				
4. 事例研究1 子育て支援に関する事例研究（親）				
5. 事例研究2 子育て支援に関する事例研究（子）				
6. 事例報告の書き方1 子育て支援				
7. 事例報告の書き方2 カウンセリング				
8. 事例報告の書き方3 プレイセラピー				
9. ケーススタディ				
10. 研究論文の書き方1 研究者から学ぶ				
11. 研究論文の書き方2 根拠づけ				
12. 研究論文書き方3 質的データ				
13. 研究論文の書き方4 事例研究				
14. 研究論文の書き方5 当事者研究				
15. 研究論文の書き方6 まとめ				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回、指定された文献を読み、自分の考えをまとめておくこと（約60分）。 授業後は、学んだことを簡潔にまとめておくこと（約30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書・参考書等＞ 森岡正芳・大山泰宏（編）（2014）臨床心理職のための「研究論文の教室」研究論文の読み方・書き方ガイド．臨床心理学増刊第 6 号．金剛出版． 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）（2015）科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-．丸善出版． その他、随時指示する。
オフィスアワー
最初の授業で伝える。
連絡先
mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。

臨床心理学演習B			単位数	2単位
授業コード	M5055	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中内 みさ			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	臨床心理論			
本授業の概要				
事例研究や自分自身の心理実践の体験に基づいて、心理理解の方法など心理臨床実践の基礎を身につける。また、先行研究を通して自分の研究内容を深める。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	事例研究を通して、様々な発達段階や技法に応じた心理臨床の概要や鍵概念を説明できる。			
2	事例研究を通して、様々な発達段階に応じて心理臨床活動を実践する際の留意点を説明できる。			
3	先行研究を通して批判的に考察し修正した自分の修士論文の研究テーマや内容を述べることができる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート（50%）			1／2
2	発表（30%）			1／2／3
3	討論への積極的な参加（20%）			1／2／3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 事例研究 1 幼児の支援に関する事例研究 2. 事例研究 2 児童の支援に関する事例研究 3. 事例研究 3 思春期の子どもの支援に関する事例研究 4. 事例研究 4 青年の支援に関する事例研究 5. 事例研究 5 成人の支援に関する事例研究 6. 事例研究 6 高齢者の支援に関する事例研究 7. 事例研究 7 カウンセリングに関する事例研究 8. 事例研究 8 プレイセラピーに関する事例研究 9. 事例研究 9 箱庭療法に関する事例研究 10. 修士論文概要の報告 1 予定している修士論文のテーマや内容の概要を報告する 11. 論文講読 1 修士論文のテーマに関する先行研究をまとめたものを発表する 12. 論文講読 2 修士論文のテーマに関する先行研究を批判的に考察し検討する 13. 論文講読 3 修士論文のテーマに関して別の立場から論じた先行研究をまとめたものを発表する 14. 論文講読 4 発表した先行研究を批判的に考察し検討する 15. 修士論文概要の報告 2 論文講読を通して修正した修士論文の概要を報告する				

臨床心理学演習A				単位数	2単位
授業コード	M5070	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
臨床心理学、精神分析学ならびにその近接領域の文献を購読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心を取りまく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの問いをたてることを促す。その問いに対して、先行研究をレビューし、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	臨床心理学および精神分析学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床領域における問いをたてることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	研究の問いに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度と取り組み。20%			1／2／3	
2	課題レポート（3回）40%			1／2／3／4	
3	期末課題レポート 40%			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. オリエンテーション 2. 研究倫理（研究の責任） 3. 生命の尊厳・尊重と研究倫理（個人情報の保護） 4. 臨床心理学における研究法 5. 基礎文献購読1（無意識と心の機能） 6. 基礎文献購読2（精神分析的情緒発達論） 7. 基礎文献購読3（パーソナリティの発達と病理） 8. 基礎文献購読4（対象関係論とその展開） 9. 研究の問いをたてる 10. 質的研究について 11. 自らの研究テーマに関する先行研究講読と討論 12. 先行研究の批判的検討 13. 先行研究レビューと理論的枠組みの構築 14. 研究計画の実際 15. 調査（実験）研究の準備 16. 中間発表					

試験等
課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：研究テーマに基づく資料文献の下調べ 1時間 復習：討論をまとめ、疑問に対して文献等で探索を進める 1時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布し、指示する。
オフィスアワー
木曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく心の問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理学演習B				単位数	2単位
授業コード	M5075	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
臨床心理学ならびに精神分析学とその近接領域の文献を購読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心を取りまく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの研究の問いをたてることを促す。その問いに対して、先行研究をレビューし、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	臨床心理学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床における研究の問いをたてることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	研究の問いに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度と取り組み。20%			1／2／3	
2	課題レポート（3回）40%			1／2／3／4	
3	期末課題レポート 40%			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 先行研究のレビュー 2. 先行研究を振り返り、問いを見出す 3. 研究倫理（研究の責任） 4. 基礎文献購読 1（情緒発達理論） 5. 基礎文献購読 2（精神分析的人格理論の基礎） 6. 基礎文献購読 3（研究法について） 7. 基礎文献購読 4（心理的支援とその展開） 8. 研究の問題と目的 9. 研究法の計画 10. 調査（実験）研究の準備 11. 調査（実験）研究の実施 12. 調査（実験）研究データの集計 13. 調査（実験）研究データの結果のまとめ 14. 研究結果と考察 15. 総合考察					

試験等
課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：研究テーマに基づく資料文献の下調べ 1時間 復習：討論をまとめ、疑問に対して文献等で探索を進める 1時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布し、指示する。
オフィスアワー
木曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問いを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）				単位数	2単位
授業コード	M5150	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
医療、教育、福祉、保健、産業、司法などの領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、それを実際に展開していくために必要な専門的知識ならびに基本となる面接法を的確に学ぶ。それを通して臨床心理学的な面接の基本的な技能を身に付ける。 さらに上記領域ごとにおける心理療法の布置や意義の違い、理論的枠組みならびに技法について学び、それぞれの臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について講義と演習を通じて学修する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	個人の心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	臨床心理学的支援を展開していくための基本的な面接技能を実行できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について理解し、説明できる（特に2年次で行う福祉施設・適応指導教室実習および精神科を中心とする病院実習の基礎を固める）。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	心理に関する支援を要する者の特性や状況を的確に把握し、どのように見立てるのかを説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
5	心理療法ならびに心理に関する相談、助言、指導等をどのように行うのかを説明し、実行できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業受講態度 30%			1／2／3／4／5	
2	課題レポート（論文読解、学習内容の理解度）30%			1／2／3／4／5	
3	期末課題レポート40%			1／2／3／4／5	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、ロールプレイなどのワークも取り入れ、臨床心理面接に必要な精神力動の理解について多角的・多面的に考える力の構築を促す授業を展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	心理支援・心理療法の意義とその理論				
第2回	力動論に基づく心理療法とその理論				
第3回	精神分析的人格論の基礎				
第4回	領域別での心理支援と心理療法：クライアントに出会う前に				
第5回	初回面接と見立て				
第6回	対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方				
第7回	面接における観察と基本的な聴き方と心を感じ取る聴き方（演習）				
第8回	介入・解釈技法				
第9回	心理面接・心理療法の導入				
第10回	心理面接・心理療法の展開				
第11回	心理面接・心理療法のプロセスにおける関係性の理解				
第12回	治療の行き詰まり				
第13回	治療の中断や治療者の不在、終結をめぐって				
第14回	多職種や家族との連携				
第15回	対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整				

試験等
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと（1時間） （復習）自らの経験と照合しつつ、事例論文などを読み、理論と臨床実践の実際との理解を結びつけるように努めること（1時間） 計30時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 土居健郎（1992）「新訂 方法としての面接 臨床家のために」医学書院
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書＞ 馬場禮子（2008）精神分析的人格理論の基礎 - 心理療法を始める前に 岩崎学術出版社 グレン・O・ギャバード著（2014）・奥寺他監訳（2019）「精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践」岩崎学術出版社 前田重治（2014）「新図説 精神分析的面接入門」誠信書房 松木邦裕（2016）「改訂増補 私設対象関係論的心理療法入門」金剛出版 松木邦裕（2015）「耳の傾け方-こころの臨床家を目指す人たちに」岩崎学術出版社 授業中にも適宜紹介する。
オフィスアワー
木曜日4限
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
方法論の理解と心理面接に臨むためには、自らの心を使い、まず多くの事例報告に触れ、その詳読を重ねること、問いを立て、その問いを追究する、考えることが重要である。さらに自らの経験を通して触れるものは、いずれについても「面接の方法論」という枠組みでとらえてみる態度と耳の傾け方を日頃から意識しておくこと。

臨床心理面接特論ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	M5160	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	東 俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	行動論にもとづいたアセスメントや指導技法について理解したうえで、各分野において指導技法・手続きの選択、および計画を作成できることを目的とする。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表 (50/100)			1	
2	レポート (50/100)			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やそのアセスメントのあり方、それに対する予防と早期発見・支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：行動と学習 第 2 回：レスポナデント条件付け 第 3 回：オペラント条件付け 第 4 回：介入の倫理 第 5 回：測度と観察法 第 6 回：実験計画法 第 7 回：レスポナデント技法 1 第 8 回：レスポナデント技法 2 第 9 回：行動アセスメント（機能分析） 第 10 回：行動アセスメント（課題分析） 第 11 回：オペラント技法 1（反応増大） 第 12 回：オペラント技法 2（反応減少） 第 13 回：オペラント技法 3（刺激性制御） 第 14 回：オペラント技法 4（シェイピング） 第 15 回：般化					

試験等
試験のフィードバックの方法
授業内で発表に対するフィードバックをする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
オフィスアワー
月曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）				単位数	2単位
授業コード	M5170	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
医療、福祉、保健、司法、教育、産業の各領域における人間を多角的にとらえるための心理査定（心理アセスメント）の意義と位置づけ、その理論について学ぶ。臨床現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の施行法、評定評価法を学ぶとともに、演習を通してその基本的な技法を身に付ける。さらに査定報告書の作成を含めたフィードバックのあり方、適切な心理に関する相談、助言、指導等について事例を通して理解を深め、その実践のための基盤を構築する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	（公認心理師・臨床心理士の実践における）一般的な臨床現場や2 年次実習現場で高頻度に活用される心理アセスメントの意義ならびに理論と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	臨床現場で出会う人の心を多角的、多面的に客観的に理解するための心理査定（アセスメント）を実施できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	臨床現場において実施した心理査定（アセスメント）所見を作成し、心理に関する相談、助言、指導等へとつなげて伝えることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	協力被検者を設定し、知能検査、自己評価法、投影法（描画法、PF スタディ、SCT等）、その他の心理検査を正確に実施する。 40%			1／2／3	
2	各心理検査の実施から査定報告文を作成する。 30%			1／2／3	
3	期末課題レポート 30%				
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、臨床心理査定に必要な技能の習得にむけて、より臨床実践的な授業を組み立て展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 心理査定の意義と位置づけ					
第 2 回 知能検査の意義・背景理論と位置づけ					
第 3 回 知能検査の施行法と実施					
第 4 回 知能検査の評定評価法と分析					
第 5 回 知能検査の所見報告書作成					
第 6 回 自己評価法人格検査の意義・背景理論と位置づけ					
第 7 回 自己評価法人格検査の施行と評定評価法					
第 8 回 自己評価法人格検査の所見報告書作成					
第 9 回 投影法の意義・背景理論と位置づけ					
第 10 回 投影法（描画法）の施行と実施					
第 11 回 投影法（描画法）の評定評価法と分析					
第 12 回 投影法（SCT）とその他の心理検査の施行と評定評価法と分析					
第 13 回 投影法の所見報告書作成					
第 14 回 テストバッテリーの組み方と総合的評定評価					
第 15 回 心理査定（アセスメント）からのフィードバックならびに心理的相談、助言、指導への応用					

試験等
期末課題テスト
試験のフィードバックの方法
テストの解答解説をmanabaに掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習 各種心理検査の内容と実施法について事前に学習しておくこと 1時間 復習 各種心理検査の実施法について修練する 1時間 計30時間 他に、各種心理検査の実施を行い、その検査結果の集計処理を行うには、かなりの時間を要することを覚悟し、授業に取り組むこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
願興寺礼子・吉住隆弘（編）（2011）心理検査の実施の初歩-心理学基礎演習Vol.5 ナカニシヤ出版 978-4-7795-0387-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> 竹内健児編（2009）事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版 竹内健児編（2016）心理検査を支援に繋ぐフィードバック-事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 第2集 ※各種心理検査用紙，道具，マニュアルなどは、提供し、必要な資料は配布する。
オフィスアワー
木曜日4限目。その他の希望については、教員に申し出て相談すること。
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
検査の実施，評定評価など授業時間外での自主的で継続的な学習が大半を占めるといい。その覚悟をもって主体的に学修を積み重ねる努力を怠らないこと。

臨床心理査定演習ⅠⅡ				単位数	2単位
授業コード		M5180	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名		日下 紀子			
時間割備考					
授業形態（主）		2 演習			
授業形態（副）		1 講義			
担当形態		単独			
研究分野（大学院）		臨床心理論			
本授業の概要					
臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法（片口法）について理論と実践の両面から詳細に学び、臨床活用可能なレベルの技能の習得を目指す。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	ロールシャッハ法の基礎理論を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	ロールシャッハ法（片口法）の実施からスコアリングができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	ロールシャッハ法（片口法）のベーシックスコアテーブル、サマリーテーブルを作成できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	ロールシャッハ法のデータ分析、データ評定より、検査所見書を作成し、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	基礎事項に関する課題提出 20%			1／2／3	
2	ロールシャッハ法のローデータのスコアリング，ベーシックスコアリングテーブル，サマリースコアリングテーブルを完成させて提出する。30%			1／2／3	
3	評価所見文の作成提出する。30%			1／2／3	
4	被験者にフィードバックする要点について説明できる。20%			1／2／3	
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、臨床面接への導入や適用に関する心理アセスメントの在り方について講義する。また、心理査定に必要な精神力動の理解とともに多角的・多面的に考え、分析する力の構築を促す授業を展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回	ロールシャッハ法の基礎理論の理解，意義と位置づけ				
第 2 回	ロールシャッハ法（片口法）の実施法と記号化法				
第 3 回	反応領域の分類とその意味				
第 4 回	反応決定因分類 1 （形態反応と運動反応）				
第 5 回	反応決定因分類 2 （色彩反応と濃淡反応）				
第 6 回	反応内容の分類とその意味				
第 7 回	スコアリングのための基礎知識の確認				
第 8 回	ロールシャッハ法の実施とスコアリング				
第 9 回	スコア集計とスコアリングテーブルの作成				
第 10 回	スコアリングテーブルの解読（量的分析）				
第 11 回	ロールシャッハ法の解釈-継起分析とテスト中の行動				
第 12 回	総合的な解釈				
第 13 回	事例の解釈の実際				
第 14 回	評価評定所見文の作成				
第 15 回	フィードバックについて・まとめ				

試験等
期末テスト
試験のフィードバックの方法
テスト返却後、解答をmanabaにて解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習　ロールシャッハ法の基礎的技能を習得するために、事前に予習し課題を行う　1時間 復習　授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。　多くの文献、事例に触れること。1時間以上 計30時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片口安史監修，藤岡新治・松岡正明著（1993）「ロールシャッハテストの学習 片口法スコアリング入門」金子書房　978-4-7608-4008-3
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考書 片口安史著（1987）「改訂　新・心理診断法」金子書房　978-4-7608-2548-7 馬場禮子（1995）ロールシャッハ法と精神分析-継起分析入門　岩崎学術出版社 馬場禮子（2017）力動的心理査定-ロールシャッハ法の継起分析を中心に　岩崎学術出版社 検査道具、用紙は、貸出し提供する。
オフィスアワー
木曜日4限目。その他を希望する場合は、教員に申し出て相談すること。
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
検査の実施，評定，評価など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといい。多くの事例に触れ、ロールシャッハ法の技術を自主的・主体的に習得するよう覚悟して意欲的に取り組み、修練してください。

臨床心理基礎実習A			単位数	1単位
授業コード	M5190	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中内 みさ、東 俊一			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	3 実験・実習・実技			
担当形態	複数			
研究分野（大学院）	臨床心理論			
本授業の概要				
ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	臨床心理面接の基本技法を身に付け、実践することができる。			
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	演習あるいは実習 50%			1
2	レポート 50%			
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 オリエンテーション				
第 2 回 基礎文献講読 1（カウンセリングに関して）				
第 3 回 基礎文献講読 2（カウンセリングの聴き方）				
第 4 回 基礎文献講読 3（カウンセリングの限界）				
第 5 回 基礎文献講読 4（カウンセラーの訓練）				
第 6 回 基礎文献講読 5（ロールプレイに関して）				
第 7 回 ロールプレイ実習：基礎				
第 8 回 逐語記録の作成				
第 9 回 逐語記録の検討 1				
第 10 回 逐語記録の検討 2				
第 11 回 ロールプレイ実習：応答				
第 12 回 逐語記録の作成				
第 13 回 逐語記録の検討 1				
第 14 回 逐語記録の検討 2				
第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習（2時間）：基礎文献を読み込み、ロールプレイ記録を作成して考察する。 事後学習（2時間）：ロールプレイとディスカッションを振り返り、次回に向けての課題について考察する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
授業中に各教員から伝える。
連絡先
中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 東 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学ぼう、積極的な参加を望む。

臨床心理基礎実習B			単位数	1単位
授業コード	M5195	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中内 みさ、東 俊一			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	3 実験・実習・実技			
担当形態	複数			
研究分野（大学院）	臨床心理論			
本授業の概要				
ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。また、精神科病院、精神保健福祉センター、児童福祉施設などの見学を通して、心理臨床の現場について知る。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	心理臨床面接の基本技法を身に付け、実践することができる。			
2	心理臨床の現場について知り、その意義と内容を述べることができる。			
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	演習あるいは実習 50%			1
2	レポート 50%			1/2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 精神科病院見学 第 2 回 精神保健福祉センター見学 第 3 回 児童福祉施設見学：児童相談所 第 4 回 児童福祉施設見学：児童心理治療施設 第 5 回 ロールプレイ実習：主訴 第 6 回 逐語記録の作成 第 7 回 逐語記録の検討 1 第 8 回 逐語記録の検討 2 第 9 回 逐語記録の検討 3 第 10 回 ロールプレイ実習：体験過程 第 11 回 逐語記録の作成 第 12 回 逐語記録の検討 1 第 13 回 逐語記録の検討 2 第 14 回 逐語記録の検討 3 第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前学習（2時間）：基礎文献を読み込み、ロールプレイ記録を作成して考察する。あるいは見学先施設に関して概要を調べる。 事後学習（2時間）：ロールプレイとディスカッションを振り返り、次回に向けての課題について考察する。あるいは施設見学で学んだことをレポートにまとめる。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考書等＞ 授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
授業中に各教員から伝える。
連絡先
中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 東 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）					単位数	6単位
授業コード	M5200	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期、2025年度第1期、2025年度第2期	
担当者氏名	中内 みさ、日下 紀子、東 俊一					
時間割備考						
授業形態（主）	3実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要						
2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身につけるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。						
アクティブラーニングの実施内容		体験学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性）	
1	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援の基本を理解し、述べるができる。					
2	発達的には幼児期から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援を実際に行うことができる。					
3						
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	実習先の評価 60%				1/2	
2	レポート 20%				1	
3	実習日誌 20%				1/2	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1 オリエンテーション（担当：全員） 2 多職種連携および地域連携（担当：全員） 3 医療保健領域の事前指導 1 医療保健領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：日下） 4 医療保健領域の事前指導 2 病院での実習において必要な知識・技能に関して（担当：日下） 5 医療保健領域での実習 1 6 医療保健領域での実習 2 7 医療保健領域での実習 3 8 医療保健領域での実習 4 9 医療保健領域での実習 5 10 医療保健領域での実習 6 11 医療保健領域での実習 7 12 医療保健領域での実習 8 13 実習報告（担当：全員） 14 実習レポートの作成（担当：日下） 15 教育領域の事前指導 1 教育領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：東） 16 教育領域の事前指導 2 適応指導教室での実習において必要な知識・技能に関して（担当：東） 17 教育領域での実習 1 18 教育領域での実習 2 19 教育領域での実習 3 20 教育領域での実習 4 21 実習報告（担当：全員） 22 実習レポートの作成（担当：東） 23 福祉領域の事前指導 1 福祉領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：中内） 24 福祉領域の事前指導 2 児童福祉施設での実習において必要な知識・技能に関して（担当：中内） 25 福祉領域での実習 1 26 福祉領域での実習 2 27 福祉領域での実習 3 28 福祉領域での実習 4 29 実習報告（担当：全員） 30 実習レポートの作成（担当：中内）						

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前指導の課題（5時間程度）、実習報告の準備（2時間）、事後レポート作成（2時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必読書・参考書等〉 適時紹介する。
オフィスアワー
授業時に各教員のオフィスアワーを伝える。
連絡先
中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp 日下 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp 東 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
誠実な態度で臨床実習に臨んでください。特に、個人情報保護には気をつけてください。

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）					単位数	6単位	チェック項目	授業担当者	開講主体	
授業コード	M5205	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第 1 期、2023年度第 2 期、2024年度第 1 期、 2024年度第 2 期					
担当者氏名	中内 みさ、西 隆太郎、日下 紀子、東 俊一									
時間割備考										
授業形態（主）	3 実験・実習・実技							Check 1-1		
授業形態（副）										
担当形態	複数							Check 2-1		
研究分野（大学院）	臨床心理論									
本授業の概要							Check 3-1			
2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身に付けるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。実習総計475時間。							Check 3-2			
アクティブラーニングの実施内容							体験学習	Check 4-1		
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		Check 5-1			
1	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援の基本を理解できる。						Check 5-2			
2	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライアントの心理的支援を実際に行うことができる。						Check 5-3			
3										
4										
5										
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		Check 6-1			
1	実習先の評価（60%）				1／2		Check 6-2			
2	レポート（20%）				1		Check 6-3			
3	実習日誌（20%）				1／2					
4										
5										
実務経験のある教員による授業科目							Check 7-1			
実務経験の授業への活用方法							Check 7-2			
日本語以外の言語による授業										
授業予定一覧							Check 8-1			
第1回	オリエンテーション（全員）						Check 8-2			
第2回	多職種連携および地域連携（担当：中内）									
第3回	医療保健領域の事前指導 1 医療保健領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：日下）									
第4回	医療保健領域の事前指導 2 病院での実習において必要な知識・技能に関して（担当：日下）									
第5回	医療保健領域での実習 1									
第6回	医療保健領域での実習 2									
第7回	医療保健領域での実習 3									
第8回	医療保健領域での実習 4									
第9回	医療保健領域での実習 5									
第10回	医療保健領域での実習 6									
第11回	医療保健領域での実習 7									
第12回	医療保健領域での実習 8									
第13回	実習報告（全員）									
第14回	実習レポート作成（担当：日下）									
第15回	教育領域の事前指導 1 教育領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：西）									
第16回	教育領域の事前指導 2 適応指導教室での実習において必要な知識・技能に関して（担当：西）									
第17回	教育領域での実習 1									
第18回	教育領域での実習 2									
第19回	教育領域での実習 3						Check 8-3			
第20回	教育領域での実習 4									
第21回	実習報告（全員）									
第22回	実習レポート作成（担当：西）									
第23回	福祉領域の事前指導 1 福祉領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：中内）									
第24回	福祉領域の事前指導 2 児童福祉施設での実習において必要な知識・技能に関して（担当：中内）									
第25回	福祉領域での実習 1									
第26回	福祉領域での実習 2									
第27回	福祉領域での実習 3									
第28回	福祉領域での実習 4									
第29回	実習報告（全員）									
第30回	実習レポート作成（担当：中内）									

定期試験	Check 9-1		
試験のフィードバックの方法	Check 10-1		
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間	Check 11-1		
	Check 11-2		
必携書（教科書販売）	Check 12-1		
必携書・参考書（教科書販売以外）	Check 13-1		
【参考書】 適宜紹介する。			
オフィスアワー	Check 14-1		
オリエンテーションで各教員のオフィスアワーを提示する。			
連絡先			
代表） 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp			
留意事項	Check 16-1		
事前事後指導、実習ともに、心理臨床家としての倫理規定を意識し、体調を管理して活動に望むこと。	Check 17-1		

臨床心理実習II				単位数	2単位
授業コード	M5210	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期、2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	青山 新吾、相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパーヴィジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務（相談室の事務受付・管理運営など含む）の実習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解し説明できる。			知識・技能	
2	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不適応問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床を行うことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	臨床経験をもとに、病態の理解や対応の基本とともに、支援を要する者への多職種連携および地域連携の意味を理解して表現することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	学内実習の成果をレポートにまとめその内容を発表			1／2／3	
2	臨床実習における担当ケースの記録作成			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
各担当者の実務経験は、病院臨床や学校臨床など異なっている。経験フィールドの違いを、スーパーバイズやカンファレンスで必要に応じて使い分け、教育の質的向上に役立てる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	心理支援・心理療法の意義とその理論				
第2回	心理支援者としての職業倫理及び法的義務				
第3回	心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ				
第4回	多職種連携および地域連携				
第5回	学内施設での受理面接と記録の書き方				
第6回	インテークカンファレンス				
第7回	インテークカンファレンスの振り返り				
第8回	学内施設での実習Ⅰ				
第9回	担当事例のスーパービジョンとその振り返り				
第10回	ケースカンファレンス				
第11回	ケースカンファレンスでの振り返り				
第12回	学内施設での実習Ⅱ				
第13回	担当事例のスーパービジョンとその振り返り				
第14回	ケースカンファレンス				
第15回	ケースカンファレンスの振り返り				

試験等
発表レポートやケース記録は、毎回の授業において適宜作成する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
発表レポートの事前作成や、臨床実習後の記録の作成には60分以上の学修時間を想定している。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー
授業内で指示する。
連絡先
青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
臨床においては、担当クライアントの個人情報に対する倫理観を常に意識して臨んで欲しい。

臨床心理実習II					単位数	2単位	チェック項目	授業担当者	開講主体	
授業コード	M5215	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期、2024年度第1期、2024年度第2期					
担当者氏名	青山 新吾、相原 彰子									
時間割備考										
授業形態（主）	2 演習							Check 1-1		
授業形態（副）	2 演習									
担当形態	複数							Check 2-1		
研究分野（大学院）	臨床心理論									
本授業の概要							Check 3-1			
1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパーヴィジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戯療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務（相談室の事務受付・管理運営など含む）の実習を行う。							Check 3-2			
アクティブラーニングの実施内容										
グループ・ディスカッション							Check 4-1			
到達目標					対応するディプロマポリシー （1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性）		Check 5-1			
1	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解し説明できる。				知識・技能		Check 5-2			
2	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不適応問題をもつクライアントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床を行うことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		Check 5-3			
3	臨床経験をもとに、病態の理解や対応の基本とともに、支援を要する者への多職種連携および地域連携の意味を理解して表現することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性					
4										
5										
成績評価の基準					対応する到達目標の番号		Check 6-1			
1	学内実習の成果をレポートにまとめその内容を発表				1／2／3		Check 6-2			
2	臨床実習における担当ケースの記録作成				1／2／3		Check 6-3			
3										
4										
5										
実務経験のある教員による授業科目							Check 7-1			
実務経験の授業への活用方法							Check 7-2			
各担当者の実務経験は、病院臨床や学校臨床など異なっている。経験フィールドの違いを、スーパーバイズやカンファレンスで必要に応じて使い分け、教育の質的向上に役立てる。										
日本語以外の言語による授業										
授業予定一覧							Check 8-1			
第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務 第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ 第4回 多職種連携および地域連携 第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方 第6回 インテークカンファレンス 第7回 インテークカンファレンスの振り返り 第8回 学内施設での実習Ⅰ 第9回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第10回 ケースカンファレンス 第11回 ケースカンファレンスでの振り返り 第12回 学内施設での実習2 第13回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第14回 ケースカンファレンス 第15回 ケースカンファレンスの振り返り							Check 8-2			
							Check 8-3			

定期試験 発表レポートやケース記録は、毎回の授業において適宜作成する。	Check 9-1		
試験のフィードバックの方法	Check 10-1		
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 発表レポートの事前作成や、臨床実習後の記録の作成には60分以上の学修時間を想定している。	Check 11-1 Check 11-2		
必携書（教科書販売）	Check 12-1		
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業内で適宜紹介する。	Check 13-1		
オフィスアワー 授業内で指示する。	Check 14-1		
連絡先 青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp			
留意事項 臨床経験においては、担当クライアントの個人情報に対する倫理観を常に意識すること。	Check 16-1 Check 17-1		

心理学研究法特論			単位数	2単位
授業コード	M5300	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	石原 金由			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	研究法分野			
本授業の概要				
研究成果の信頼性は、研究計画に左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究および調査研究に関する研究法について講義するとともに、種々の研究例を取り上げ、研究法の観点から研究批判を行ってもらい、また、事例研究については、研究デザインや研究上の留意点について解説する。授業の後半では、各自の研究計画を発表してもらい、他の受講者から批評をもらい、よりよい研究とするために討論をしてもらう。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究法に関する基本的な知識と技能が身につく、それらを活用することができる。			知識・技能
2	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力が身につく。			思考・判断・表現力
3	受講者自身が研究計画を発表することによって、身につけた知識・技能を適用する力が身につく。			思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	具体的な研究例を批評してもらう（20%）			1／2
2	受講学生の研究テーマに関わる研究計画の発表（40%）			2／3
3	基礎的および臨床的論文を一本ずつ取り上げ、論文の批評をレポートする（40%）			2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 研究法の必要性 第 2 回 研究法に関する基礎知識 第 3 回 量的調査 1（調査用紙作成の留意点） 第 4 回 量的調査 2（心理尺度の作成） 第 5 回 量的調査 3（分析方法） 第 6 回 実験研究 1（要因計画） 第 7 回 実験研究 2（実施上の留意点） 第 8 回 実験研究 3（分析方法） 第 9 回 研究批判 1（具体的な研究例を批判） 第 10 回 研究批判 2（具体的な研究例を批判） 第 11 回 妥当性の低い研究デザイン 第 12 回 単一事例研究 第 13 回 研究批判 3（具体的な研究例を批判） 第 14 回 研究計画の発表と批評 第 15 回 研究計画の発表と批評				

試験等
試験は実施しないが、論文批評のレポートを提出してもらう。レポートでは、2本の論文（量的研究と事例研究）を読み、それらの批評をしてもらう。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各回の講義後、少なくとも30分の復習またはテキストの再読をして欲しい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会 ISBN4-13-012035-2
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受ける。これ以外の時間での質問や相談については、予めアポイントメントをとって下さい。
連絡先
kind03@agate.plala.or.jp stone@m.ndsu.ac.jp
留意事項
とくになし

心理統計法特論			単位数	2単位
授業コード	M5310	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	梶原 彰子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	研究法分野			
本授業の概要				
統計に関する基本的事項について解説するとともに、収集された大量のデータをどのように整理し、分析するかについて模擬データを用いて解説する。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	統計解析の様々な手法を理解し、説明できる		知識・技能	
2	論文を読んで統計処理を理解し、研究計画から適切な統計処理を選択できる		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	統計ソフトを実際に使い、模擬データの統計処理ができ、結果を分析することができる		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	受講態度（20%）		1／2／3	
2	課題レポート（80%）			
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 統計の必要性と基礎知識				
第2回 記述統計				
第3回 相関				
第4回 χ^2 検定1				
第5回 χ^2 検定2				
第6回 t-検定				
第7回 分散分析 1				
第8回 分散分析 2				
第9回 分散分析 3				
第10回 ノンパラメトリック検定				
第11回 因子分析 1				
第12回 因子分析 2				
第13回 重回帰分析 1				
第14回 重回帰分析 2				
第15回 判別分析				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：当該学習分野の資料や講義内で使用する論文を読んで疑問点をまとめておくこと（20分） 復習：学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で使用した統計処理は自身でも実行してみる（60分）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、資料を配布する。
オフィスアワー
水曜日3限
連絡先
sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
統計ソフトは、SPSSを中心に、Web上で利用できるJS-Starを使用する。

発達心理学特論			単位数	2単位
授業コード	M5320	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	湯澤 美紀			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	発達基礎論			
本授業の概要				
自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを乳児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを踏まえ、青年に対する進路・職業選択における援助計画の立案・評価を行うことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	中年期以降のアイデンティティの知見を生かしながら、教育現場での保護者理解ができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する		1	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 人間発達学領域におけるアイデンティティ研究の意義				
第 2 回 自己意識に関する文献的展望				
第 3 回 乳児期における自己の発見				
第 4 回 1 歳児から 2 歳児の発達と自己意識				
第 5 回 3 歳児の発達と自己意識				
第 6 回 4・5 歳児の発達と自己意識				
第 7 回 児童期：多面的な自己像の形成				
第 8 回 思春期にみられる心理的課題				
第 9 回 青年期：アイデンティティの形成にかかる諸要因				
第 10 回 青年期：キャリア形成と自己意識				
第 11 回 青年期にみられる心理的課題				
第 12 回 中年期：アイデンティティの危機と再生				
第 13 回 中年期にみられる心理的課題				
第 14 回 教育現場における保護者支援を考える				
第 15 回 一人ひとりのニーズに応じた援助計画				

試験等
最終レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（事前・事後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
随時指示をする
オフィスアワー
水曜日3限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
なし

学習心理学特論		単位数		2単位	
授業コード	M5330	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第 1 期
担当者氏名	堤 幸一				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	基礎分野				
本授業の概要					
まず記憶理論、次に学習理論を体系的に概説する。途中に、学んだ理論的知見を現実生活場面に応用するという視点でデモ実験・体験を取り入れる。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	学習理論・記憶理論を体系的・有機的に知り、説明できる。				知識・技能／思考・判断・表現力
2	学習理論・記憶理論に対して、現実生活への応用の視点が持てる。				知識・技能／思考・判断・表現力
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	予習レジュメに基づくプレゼン 50%				1／2
2	課題レポート 50%				1／2
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 回 導入（記憶・学習・認知の基礎知識の確認） 2 回 デモ実験 1（自由再生） 3 回 記憶理論 1（記憶研究史） 4 回 デモ実験 2（MCQ） ※ デモ実験 1， 2 の合併課題レポート 5 回 記憶理論 2（記憶の諸相と仕組み） 6 回 記憶理論 3（忘却） 7 回 学習理論 1（学習研究史） 8 回 学習理論 2（連合説 1：条件づけ） 9 回 学習理論 3（連合説 2：スケジュールと強化随伴性） 10 回 学習理論 4（認知説） 11 回 学習理論 5（観察学習説・社会的学習説） 12 回 デモ実験 3（概念達成） ※ デモ実験 3 の課題レポート 13 回 概念学習 14 回 学習障害（読字障害） 15 回 まとめ（記憶・学習・認知の統合的理解） ※学習についてのまとめの課題レポート					

教育心理学特論			単位数		2単位
授業コード	M5360	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期	
担当者氏名	東 俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	基礎分野				
本授業の概要					
教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性の中で展開する教育・学習の過程を心理学的に探究する方法について学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。 そのため、学生自らが最新のトピックスである、実践研究、事例研究を選択・講読・発表していき、主体的な討論によって学びを深めていく。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	教育の場における教育者と学習者の関係性を理解するための方法論について学び、心理学的な観点から教育・学習について批判的に論じることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表 (50/100)			1	
2	レポート (50/100)			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やその概要・背景の多面的な理解を促す。そして、それらの困難に対するアセスメントのあり方や予防と早期発見・支援、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 発達過程と環境 2. 教育の意義と課題 3. 学習とは 4. 学習と環境 5. 学習に影響を及ぼす環境要因1（物理的環境） 6. 学習に影響を及ぼす環境要因2（人的環境） 7. 学校生活における”集団”の意義 8. 学校生活における今日的な課題 9. 学校生活における教育的・発達の危機について 10. 学業不振に関する事例検討 11. 知的障害・発達障害に関する事例検討 12. 不登校・ひきこもりに関する事例検討 13. いじめに関する事例検討 14. 反社会的行動問題に関する事例検討 15. 教育現場における心理的支援の意義と課題					

試験等
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
授業内で発表に対するフィードバックをする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に随時配布、指示する。
オフィスアワー
金曜 2 限
連絡先
nishi@lime.plala.or.jp ※ ryu@lime.plala.or.jp から返信することがあります。
留意事項

社会心理学特論			単位数	2単位
授業コード	M5370	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	芝崎 美和			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態				
研究分野（大学院）	社会分野			
本授業の概要				
個々人の心理を理解する場合、個人の特性や内面だけでなく、社会的環境や対人相互作用に注意を向ける必要がある。本講義では、実践的心理学の基礎として社会心理学的な視点をもつことの重要性について学ぶ。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	社会心理学の各分野における最新の知見について理解する。			
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業への参加度（60%）、レポートの成績（40%）の総合評価。			
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 社会心理学とは（ガイダンスを含む）				
第 2 回 社会的自己				
第 3 回 社会的認知				
第 4 回 対人的影響とコミュニケーション				
第 5 回 対人関係				
第 6 回 向社会的行動：援助行動				
第 7 回 反社会的行動：攻撃行動				
第 8 回 個人と集団				
第 9 回 組織と人間				
第 10 回 集合行動				
第 11 回 文化				
第 12 回 非言語行動				
第 13 回 空間行動				
第 14 回 座席行動				
第 15 回 まとめと課題レポート				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
岡 隆・坂本真士（2018）. ポテンシャル社会心理学 . サイエンス社 ISBN978-4-7819-1431-2 C3311 大坪庸介・アダム＝スミス（2017）. 英語で学ぶ社会心理学 . 有斐閣 ISBN978-4-641-18436-7 C1311 北川歳昭（2003）. 教室空間における着席位置の意味 . 風間書房 ISBN4-7599-1356-4 C3011 北川歳昭（2012）. 座席行動の心理学-着席位置をめぐる心理メカニズムの解明-. 大学教育出版 ISBN978-4-86429-136-1 C3011
オフィスアワー
連絡先
留意事項
講義科目ではあるが、演習方式を取り入れた双方向授業を目指すので、積極的に授業に参加してほしい。

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)				単位数	2単位
授業コード	M5410	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	松本 洋輔				
時間割備考	隔年開講（心身医学特論は来年度開講）オンライン授業				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神・身体分野				
本授業の概要					
精神医学総論と精神症候学について概説する。 各精神疾患についての歴史・原因・症状・経過・診断・治療について概説する。 精神科治療法について概説する。 これらを通して、心理専門職が医療現場で協働していく際の基礎的素養の修得を目指す。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学生が精神医学の概論について知識を持つ 1) 精神医学の歴史について学ぶ 2) 異常精神現象および精神疾患の症候学について知り、理解する 3) 記憶の障害について基本的な知識を持つ 4) 神経心理学について基本的な知識を持つ 5) 精神疾患の病因論について基本的な知識を持つ 6) 精神医学の心理学的な基本となる了解心理学と力動心理学、行動主義について学ぶ 7) 精神医学の疾患概念と診断基準について基本的な知識を持つ			知識・技能	
2	統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病）について基本的な知識を身に着ける 1) 症状について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 治療法について知識を持つ 4) 福祉制度について知る 5) 自殺予防との関わりについて知る			知識・技能	
3	嗜癖・依存症について基本的な知識を身につける 1) 症状と病態について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 回復の過程について知識を持つ 4) 有効な介入について知る			知識・技能	
4	自閉スペクトラム症について理解する 1) 症状について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 治療法について知識を持つ 4) 教育、福祉との関わりについて知る			知識・技能	
5	器質性精神疾患について理解する 1) 認知症の種類について知る 2) 認知症の症状について説明できる 3) 認知症の経過と予後について説明できる 4) その他の器質性精神疾患にどんなものがあるか知る			知識・技能	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート（25%）			1/2/3/4/5	
2	小テスト（25%）			1/2/3/4/5	
3	最終テスト（50%）			1/2/3/4/5	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
精神科医としての臨床経験を元に教育を行う					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 保健医療分野における多職種専門家の協働体制について・精神医学概論 I					
第2回 精神医学概論 II・保健医療分野に関わる公認心理師の実践					
第3回 精神科症候学 I					
第4回 精神科症候学 II					
第5回 統合失調症 I					
第6回 統合失調症 II					
第7回 認知症 I					
第8回 認知症 II					
第9回 気分障害 I					
第10回 気分障害 II					
第11回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 I					
第12回 知的障害と自閉症スペクトラム障害 II					
第13回 嗜癖・依存症 I					
第14回 嗜癖・依存症 II					
第15回 パーソナリティ障害					



試験等
定期試験7月
試験のフィードバックの方法
採点結果を返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
適宜レポートの提出を求め、各階授業の理解内容をチェックする。レポートは1時間以内に作成できるものとする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜紹介する
オフィスアワー
連絡先
留意事項
心身医学特論とともに受講することが望ましい。

臨床大脳発達学特論			単位数	2単位
授業コード	M5430	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	林 泰資			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	精神・身体分野			
本授業の概要				
脳の細胞・組織レベルの理解のもとに、感覚、運動、睡眠などの基礎的な脳機能について論述する。その後、言語、認知、注意、記憶、学習などの高次脳機能と、その障害について学習する。さらに、精神神経疾患、気分障害、発達障害などについて概説する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	神経科学の理解のもとに、精神神経疾患、気分障害、発達障害の医学的理解を目標とする。			知識・技能／思考・判断・表現力
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	課題レポート（80%）、質疑応答・受講状況（20%）などから総合的に評価する。			
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：神経科学の基礎（ニューロンとグリア、活動電位、シナプス伝達） 第2回：神経科学の基礎（脳の構造と機能） 第3回：感覚系と運動系（化学感覚系、視覚、聴覚、平衡感覚、体性感覚） 第4回：感覚系と運動系（脳・脊髄による運動制御） 第5回：脳と行動（情動、動機づけ） 第6回：脳と行動（脳のリズムと睡眠） 第7回：脳と行動（言語、注意） 第8回：脳の可塑性（記憶系） 第9回：脳の可塑性（学習と記憶の分子メカニズム） 第10回：精神神経疾患（アルツハイマー病） 第11回：精神神経疾患（脳卒中） 第12回：精神神経疾患（うつ病） 第13回：脳機能と発達障害（自閉症スペクトラム障害） 第14回：脳機能と発達障害（注意欠陥・多動性障害） 第15回：まとめ				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に与えられた資料に目を通しておくこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考資料，文献などを必要に応じて配付または紹介する。
オフィスアワー
1期：月曜日5限
連絡先
yhayashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
脳科学と周辺領域の書籍，学術雑誌などに目を通し，文献検索を行うなど，関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。

障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)			単位数	2単位
授業コード	M5440	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	東 俊一			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	精神・身体分野			
本授業の概要				
知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパトリーを形成する技法や、公認心理師としての支援・実践のありかたについて学ぶ。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	子どもの抱える課題を客観的に理解したうえで、適切な技法選択及び指導手続きを作成できることを目的とする。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での発表(50/100)			1
2	レポート(50/100)			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験、及び岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、特別な支援を要する児童の教育現場における困難内容と支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：知的障害児のことばと認知の課題に関する理解と支援 第 2 回：知的障害児の運動機能と記憶の課題に関する理解と支援 第 3 回：発達障害の理解（生理・病理） 第 4 回：発達障害の理解（心理・社会生活） 第 5 回：学習理論（レスポナント条件付け） 第 6 回：学習理論（オペラント条件付け） 第 7 回：対人相互作用の形成 第 8 回：生活スキルの形成 第 9 回：コミュニケーション行動の形成 第 10 回：集団参加の促進 第 11 回：概念形成 第 12 回：行動問題へのアプローチ 第 13 回：障害のある子どもの家族支援の実践 第 14 回：障害児福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践 第 15 回：障害者福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践				

試験等
試験のフィードバックの方法
授業内で発表に対してフィードバックする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、指示・紹介する
オフィスアワー
金曜日1限
連絡先
s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理療法特論Ⅰ			単位数	2単位
授業コード	M5510	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中内 みさ			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	心理支援分野			
本授業の概要				
遊戯療法および箱庭療法をとり上げ、各種技法の理論的背景、非言語的アプローチ法、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点や課題などを、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	遊戯療法、箱庭療法の非言語的アプローチの理論について説明することができる。			
2	非言語的アプローチにおける表現の背景にある子どもの気持ちや象徴意味を読み取ることができる。			
3	遊戯療法あるいは箱庭療法の実践における留意点を述べることができる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	2回のレポート課題（60％）			1／2／3
2	発表・討論への積極的参加（40％）			1／2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回	心理療法とは何か			
第2回	遊戯療法 1 原理			
第3回	遊戯療法 2 治療的機能			
第4回	遊戯療法 3 アクスラインを読む			
第5回	遊戯療法 4 トムの事例			
第6回	遊戯療法 5 エンマの事例			
第7回	遊戯療法 6 事例検討① 幼児期の子どもの遊戯療法			
第8回	遊戯療法 7 事例検討② 児童期の子どもの遊戯療法			
第9回	遊戯療法 8 事例検討③ 障がいをもつ子どもの遊戯療法			
第10回	箱庭療法 1 原理			
第11回	箱庭療法 2 実習と作品の見方			
第12回	箱庭療法 3 事例検討① 幼児期・学童期の子どもの箱庭療法			
第13回	箱庭療法 4 事例検討② 思春期の子どもの箱庭療法			
第14回	箱庭療法 5 事例検討③ 成人の箱庭療法			
第15回	まとめ			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考えや疑問をレポートにまとめておくこと（約30分）。事例検討の場合は、文献を探してレジュメにまとめるなど発表の準備をする（約1時間）。 授業後は、討論を振り返り、異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと（約40分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈必携書〉 アクスライン「遊戯療法」岩崎学術出版 河合隼雄「箱庭療法入門」誠信書房 〈参考書等〉 必要に応じて紹介する。
オフィスアワー
最初の授業時に伝える。
連絡先
中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加と誠意ある態度を望む。

心理療法特論ⅠⅠ			単位数	2単位
授業コード	M5520	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中内 みさ			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	心理支援分野			
本授業の概要				
心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、心理療法とは何かを考察する。また、各治療論から見た臨床実践例について、ディスカッションを行い、各療法の理解を深める。さらに、実際の事例検討会で述べられたコメントやスーパーヴィジョンの記録から、セラピストの心構えや事例検討会の意義などを学ぶ。これらの検討を通して、自分なりの臨床観、心理治療観を打ち立てていく。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	さまざまな学派における心理療法の治療論についての理解を持ち、関係性の理解を踏まえて自分の心理臨床論を論じることができる。			
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート 50%			1
2	授業時のディスカッションへの参加 50%			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 「素足の心理療法」を読む 1 沈黙の時間、根本原則、自灯明 2. 「素足の心理療法」を読む 2 共業性、施無畏、素足であること 3. 「素足の心理療法」を読む 3 含羞性、畏敬性、若い心理臨床家へ 4. 心理療法を考える 5. 来談者中心療法から見た事例 6. 精神分析の観点から見た事例 7. 分析心理学から見た事例 8. 行動療法から見た事例 9. 認知行動療法から見た事例 10. 統合的アプローチから見た事例 11. 「河合隼雄語録」を読む 1 面接場面の具体的問題 12. 「河合隼雄語録」を読む 2 クライエントの内的力動 13. 「河合隼雄語録」を読む 3 クライエント-セラピスト関係 14. 「河合隼雄語録」を読む 4 セラピストとしての問題 15. 「河合隼雄語録」を読む 5 治療観から人間観へ				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
文献など指定された箇所を読み、自分の意見や備問、感想等をまとめておく（1時間程度）。 討論を振り返り、得た知見や新たな考えなどをコメントにまとめる（30分程度）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜必携書＞ 霜山徳爾（1989）素足の心理療法，みすず書房 河合隼雄 河合俊雄（編）（2010）生きたことば、動くこころ 河合隼雄語録，岩波出版 ＜参考書等＞ 適時、紹介する。
オフィスアワー
最初の授業で伝える。
連絡先
mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

投影法特論			単位数	2単位
授業コード	M5530	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中内 みさ			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	心理支援分野			
本授業の概要				
投影法について、被検査者との関係性を重点において検討を行う。ロールシャッハをはじめとする投影法の特徴やメリット・デメリットなどについて理解を深めることを目的とする。本講義では特に描画を用いた投影法を取り上げる。バウムテストや風景構成法などを実際に体験することを通して分析・解釈の方法を学ぶ。また、心理臨床の実際における投影法の実践や理解の仕方について考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	投影法の特徴や分析・解釈について説明できる。			
2	被験者からのコミュニケーションを理解するための投影法を使ったアプローチについて説明できる。			
3	バウムテストや風景構成法など描画を用いた投影法を実施・分析し、自分なりの考察を述べることができる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート 60%			1/2/3
2	発表・討論への積極的参加 40%			2/3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. オリエンテーション-投影法とは 2. 描画を読み解くこと 3. 心理臨床の実際における投影法理解について 4. バウムテスト1-体験 5. バウムテスト2-解釈 6. バウムテスト3-事例 7. HTP1-体験と解釈 8. HTP2-事例 9. 風景構成法1-体験 10. 風景構成法2-解釈 11. 風景構成法3-事例 12. 家族画に関して 13. Squiggleの体験と事例 14. MSSMの体験と事例 15. 自由画、9分割統合絵画法など				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 投影法実施に必要な方法の理解、解釈論の理解について予習および復習（1時間程度）。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉 授業中に随時配布、指示する。
オフィスアワー 最初の授業時に伝える。
連絡先 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）			単位数	2単位
授業コード	M5610	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	青山 新吾			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
文部科学省によるスクールカウンセラー事業も、中学校を中心とする時代から、幼稚園、小学校、高等学校とその対象範囲が拡大する時代へと移った。そこで、各世代に特有の問題や、先生方との連携や協働の在り方、不登校やいじめ、発達障害等のトピックについての臨床心理学的知見について取り上げる。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学校臨床心理学の実践的知見について理解する。			知識・技能
2	学校臨床心理学の実践的知見を理解した上で、それを自分なりの構成と表現で発表できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表内容 30%			1／2
2	授業での貢献度（ディスカッションでの発言） 30%			1／2／3
3	総合レポート 40%			1／2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：学校生活の外観 第 2 回：学校教育のシステム、文化 第 3 回：学校臨床心理学とは 第 4 回：不登校をめぐる現状 第 5 回：不登校への学校心理臨床 第 6 回：いじめ・暴力行為をめぐる現状と支援 第 7 回：特別支援教育とは 第 8 回：特別支援教育の具体的取組 第 9 回：今、学校で 第 10 回：発達障害のある子どもとの現状と臨床の心構え 第 11 回：保護者への支援 第 12 回：学校臨床のアセスメント 第 13 回：関係諸機関との連携 第 14 回：多様性の時代ーインクルーシブ教育ー 第 15 回：まとめと振り返り				

試験等
15回の講義後に総合レポートの作成を求める。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各回のテーマについて各自で基礎的事項についての事前学習に積極的に取り組んで欲しい。そのための時間を60分程度と想定している。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本学校心理学会編「学校心理学ハンドブック第2版」教育出版 その他、授業中に適宜配布する。
オフィスアワー
講義中に指示する。電子メール等による質問、相談は随時受け付ける。
連絡先
saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自身の体験や臨床実感と重ねながらディスカッションを進めていきたい。

司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）			単位数	2単位
授業コード	M5620	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	関本 憲章			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
1 日本における司法、特に裁判制度の理解 2 犯罪心理学等に基づく矯正・保護制度の理解 3 犯罪を犯した人への支援と社会福祉の理解				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	犯罪に関係する司法制度と行政的枠組みを理解するとともに、犯罪の原因となる生育・家庭等についての犯罪心理学理論を踏まえた改善・支援の現状について理解を深める。			
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	1 質問課題に解答する試験及び課題に対する点数評価（70点） 2 授業における質疑・レポートによる理解度の評価（30点） 3 上記1及び2の総計100点評価			
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回 日本の司法制度：警察、検察、裁判所についてその役割を理解する。 犯罪捜査、裁判、矯正施設の役割 第 2 回 司法制度に関連する心理学的視点：犯罪司法及び犯罪心理学の視点 第 3 回 犯罪の原因及び日本における犯罪の概要：犯罪心理学等から犯罪行為・心理を概観する 第 4 回 法務省矯正局の行政的枠組み、概要 第 5 回 少年矯正：非行、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院の業務概要 第 6 回 非行性の軽減を目的とした矯正教育の要点 第 7 回 成人矯正：犯罪、裁判制度、拘置所、刑務所の業務概要 第 8 回 非行・犯罪に関する司法制度についての質疑及び今後の課題 第 9 回 更生保護制度について：日本の社会福祉の観点から概観し、特に岡山県に関連した人物や組織について理解を深める。 第 10 回 再犯の防止に関連した社会内処遇の概要：法務省保護局の行政的枠組み、概要 第 11 回 保護観察制度、保護司制度及び更生保護施設の役割 第 12 回 更生保護制度における関係機関・団体との関係：特に福祉機関、就労支援関連等について 第 13 回 矯正・更生保護における最近の課題、動向について 第 14 回 司法・矯正・保護制度に関わる資格及び心理学的業務の概要 第 15 回 認定心理師の資格と業務について				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
1 更生保護制度及び心理学理論と心理的支援（社会福祉士シリーズ、第2及び第20、弘文堂） 2 公認心理師エッセンシャルズ（有斐閣）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
1 授業の進捗状況及び施設の協力が得られた場合、授業内容に沿った施設見学（更生保護施設等）を計画する。

産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）				【単位数	2単位
授業コード	M5630	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	國村 博子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要					
産業・労働領域におけるメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、専門職に求められる姿勢を身につけることで、他職種とのチーム連携を推進し、効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指す。					

試験等
期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法
レポート発表後にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各回の予習として事前配付資料に目を通し、自己の見解を述べるようにしておく（1時間）。 期末レポート（2時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書等> 「Relax 職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」 「Selfcare こころの健康 気づきのヒント集」 「Return 改訂・心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」 「職場復帰支援プログラムとは」： （厚生労働省・（独）労働者健康安全機構）
オフィスアワー
質問は授業終了後に教室で受け付ける。
連絡先
連絡先アドレス：aiilabo0204@gamil.com
留意事項
毎回リアクションペーパーを配布し、課題や感想など記入を求める。

家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）				単位数	2単位
授業コード	M5640	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	高野 恵代				
時間割備考	9月未定 1～5時限				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要					
本講義の目的は、家族が人間の発達にどのような意味をもつのか、ライフサイクルの視点から、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。とくに、個人や家族の抱えるさまざまな心理的・行動的な困難や問題を家族という文脈の中で理解し、解決に向けた援助を行っていかうとする対人援助方法論である「家族療法」を中心に概説する。理論だけでなく、医療、教育、福祉、司法領域で行われている実践についても紹介し、家族を取り巻く環境や社会についても取り上げる。また、家族アセスメントで使用される心理検査についても体験し、実践に繋がる知見を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	（1）家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。				
2	（2）地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。				
3	（3）心理に関する相談、助言、指導等に対し、上記の（1）及び（2）を応用できる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	（1）授業内での取り組み姿勢（発表回数、ディスカッションへの参加度）30%。				1／2／3
2	（2）最終レポート（70%）。				1／2／3
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 オリエンテーション：家族と社会					
第 2 回 家族システム論：家族をどう捉えるか					
第 3 回 家族を理解するための概念：家族をどのように見立てるか					
第 4 回 家族の発達（1）：独身の若い成人期					
第 5 回 家族の発達（2）：結婚による家族の成立期					
第 6 回 家族の発達（3）：乳幼児を育てる段階					
第 7 回 家族の発達（4）：小学生の子どもとその家族					
第 8 回 家族の発達（5）：思春期・青年期の子どもとその家族					
第 9 回 家族の発達（6）：老年期の家族					
第 10 回 家族への臨床的アプローチ					
第 11 回 夫婦関係の危機と援助					
第 12 回 子育てをめぐる問題と援助					
第 13 回 家族が経験するストレスと援助					
第 14 回 家族の中のコミュニケーション					
第 15 回 家族アセスメント：心理検査の実施と分析および解釈の体験					

試験等
授業最終回にレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
課題については授業内でフィードバックを行う。期末レポートは、manaba folioもしくはメールを通じてフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（１）予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと（２時間程度）。 （２）授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること（２時間程度）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義時に授業資料を配布する。また、参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー
質問は授業開始前もしくは授業後に受け付ける。集中講義期間外は、メールで対応する。
連絡先
メールアドレス：ytakano@asu.aasa.ac.jp
留意事項
・授業開始前に、授業に関するアンケート調査を実施する。 ・文献講読や発表資料の作成など、授業外で行う作業がある。

健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）			単位数	2単位
授業コード	M5650	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	多田 志麻子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	臨床心理学 健康心理学			
本授業の概要				
心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。 心の健康の保持増進や病気の予防に関する理論を理解したうえで、グループワークや研究論文の実践事例の発表・討論を取り入れ、心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法を修得する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	心の健康教育に関する理論を説明できる。			
2	心の健康教育に関する実践方法を支援に活用できる。			
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表・討論への参加（40%）,			1/2
2	レポート課題（60%）			1/2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：心の健康教育とは 第 2 回：予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論 第 3 回：セルフケアのための自己理解 第 4 回：健康とパーソナリティ 第 5 回：健康とストレス 第 6 回：健康と生活習慣 第 7 回：児童期・青年期（学校）の心の健康教育 第 8 回：成人期（職場）の心の健康教育 第 9 回：老年期の心の健康教育 第 10 回：災害と心の健康教育 第 11 回：ストレスマネジメント 第 12 回：認知行動療法 第 13 回：アサーショントレーニング 第 14 回：アンガーマネジメント 第 15 回：今後の課題・まとめ レポート提出				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義形式授業後は、配布資料とノートを見直し、授業内容を復習し、次の授業に臨む（30分）。 また、専門雑誌から健康心理学に関連する研究論文を選び、レジメを作成する。それに基づいて発表、議論を行う（2時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献：竹中晃二編 健康心理学 北大路書房 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫編 健康・医療心理学 医師薬出版 適宜資料を配付する。
オフィスアワー
質問は授業終了後またはメールで受け付ける。
連絡先
s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項